

多面的・多角的な思考を促す ために教師が大切にしたいこと

松山市立久枝小学校
教諭 三宅 浩司

1

道德科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

(文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道德編』)

2

道德的判断力とは？

「道德的判断力は、それぞれの場面において善悪を判断する能力である。つまり、人間として生きるために道德的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力である。的確な道德的判断力をもつことによって、それぞれの場面において機に応じた道德的行為が可能になる。」

(文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道德編』)

↓
知的な側面

3

多面的・多角的に考えるとは？

「道德科で考える道德的価値や関わる事象は様々な側面を持っている。それを、これまでの自分の体験から感じたり考えたりしたこと、さらに友達が感じたり、考えたりしたことなどを基に、様々な角度からその事象を考察し、より深く道德的価値の意義などについて理解していくこと。」

(浅見哲也『道德科授業構想グランドデザイン』)

↓
知的な営み

4

あえて分けると…

「多面的に考える」
→道徳的価値そのものがもつ意味のさまざまな側面を考える

「多角的に考える」
→ある道徳的価値や道徳的問題を考える条件や観点の多様性を考える。

(高宮正貴『道徳的判断力を育む授業づくり-多面的・多角的な教材の読み方と発問-』)

5

そのために教師が大切にしたいこと

教材の読み方と、それに伴う発問

↓

深い学び

6

A：道徳的価値の意味、成立条件を読み解く

教材を熟読 ↔ 『解説』を読む

焦点化したい道徳的価値の意味、成立条件を定める。

そのために…

学年段階ごとの系統性をふまえる。

「内容項目の指導の観点」から気付かせたい、考えさせたいポイントを把握する。

7

友情という価値が有する様々な意味や成立条件

相互尊敬

切磋琢磨

思い出の共有

相互信頼

献身・自己犠牲

非実用性

互惠性

対等性

友情

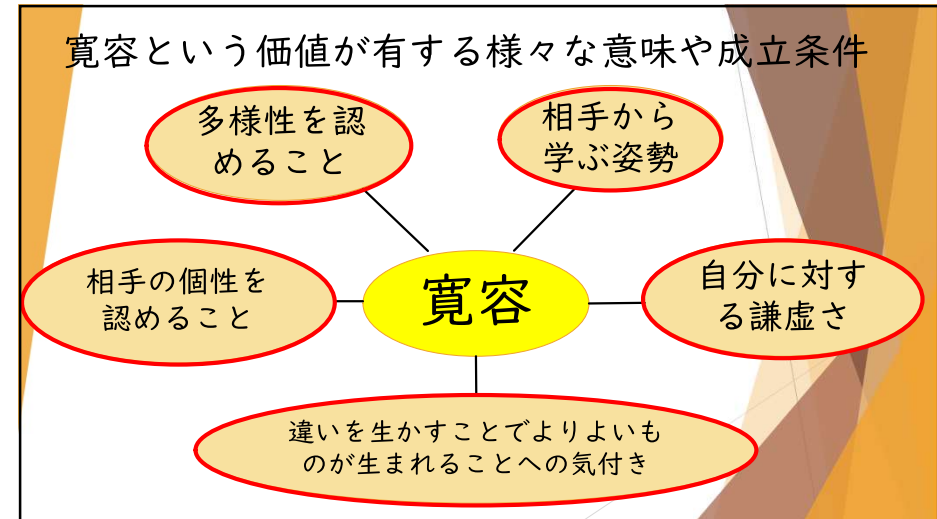
焦点化

8

『友のしょう像画』

「友情」という価値の成立条件である「相互信頼」への気付き。

9



10

『ブランコ乗りとピエロ』

「寛容」という価値を支える心について多面的・多角的に考える。

11

B：複数の価値観の重みの違いを読み解く

規則の尊重 約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること

「雨のバスでいりゅう所で」を例にとると…
雨の日にたばこ屋さんの軒下に並んで待つことは、「きまり」と言えるのか？

『解説』を読むと… 「社会生活をする上で守るべき公德」

価値観A：決められた規則でなければ従わなくてもよい。 ↔ 価値観B：決められた規則でなくても従うべきである。

12

C：道徳的価値の意義（理由、効用・目的）を読み解く

理由

「きまりを守ることはなぜ大切か？」
「きまりは何のためにあるのか？」

効用・目的

結果・帰結 成長・変化
短絡的な結果 長期的な結果

「節制するとどんなよいことがあるの？」
「努力するとどんなよいことがあるの？」

児童生徒の未来の視点から考えると、「自己実現」という目的が出てくる可能性がある。

13

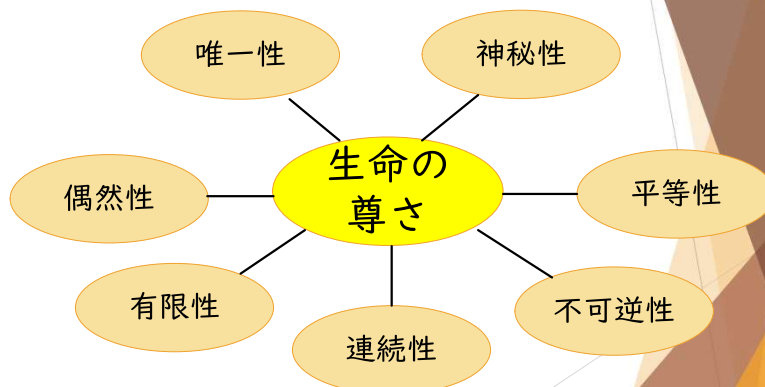
C：道徳的価値の意義（理由、効用・目的）を読み解く

【演習1】「生命の尊さ」の内容について「生命が尊い理由」を複数あげてみてください。

生命の
尊さ

14

C：道徳的価値の意義（理由、効用・目的）を読み解く



15

D：「人間理解」の視点で読み解く

人間理解

道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解する。

「容易に親切にできない人間」が描かれている場合…

「どうして親切にできないのか？」
「どうしたら親切になれるのか？」

阻害条件

価値の実現を妨げる条件

「努力を挫くものは何だろう？」

促進条件

価値の実現を促進する条件

「努力できるために必要な心構えは？」

16

ただし…

①登場人物の弱さをとらえる

「どうしてAさんは、〇〇できなかったのだろう？」

②児童生徒本人の弱さをとらえる

「あなただったら、〇〇できる？」

「では、どうしてできないのだろう？」（阻害条件）

「では、どうしたらできるのだろう？」（促進条件）

道徳的価値の実現のおずかしさを認め、そのうえで、
阻害条件や促進条件につなげることもできる。

17

E：教材で描かれている状況の条件を変える（条件変更）

教材のなかで描かれている設定や条件を変えることによって、
対象・相手・方法・時などの違いに応じた価値判断を問う。

「登場人物は〇〇したが、もし△△というように、条件
がちがったとしたらどうだろう？」

「条件変更を用いると「〇〇の場合は正しいが、△△の場合は
正しくない」と言った議論も生まれる。道徳的価値が「どんな
対象について、どんな相手に対して、どんな方法で、どんな時
に、どんな条件のもとであれば正しいのか」を多角的に分析し
たり、批判的に考えたりすることができる。

18

「手品師」を例にとると…

誠実

- ・自分を偽らないこと
- ・うしろめたくないこと

条件変更

「もし翌日男の子が来なかったら、手品師はどう思っ
ただろう？」

誠実が「うしろめたさの残らない決断」であるとすれ
ば、この条件変更を通して考えさせることで、揺るが
ない手品師の誠実さに迫ることもできる。

19

F：個別の状況下での価値理解の適用の是非・あり方を
考える

教材そのものをどう読むかということではなく、教材に描か
れた場面とは異なる場面を意図的に想起・提示する。

Eとの違い

教材から離れ、教材とは異なる場面を提示することによって、
対象・相手・方法・時などの違いに応じた価値判断を問う。

教材とは…

特定の条件や状況における特定の行
為のあり方や考え方を示したもの

教材を「まもり」

20

「ブランコ乗りとピエロ」を例にとると…

寛容

- ・人をとがめず、受け入れること
- ・過失をとがめず、人を許すこと

条件変更

↓

「最初に聞いたみんなが許せないと思うときと、ピエロがサムを許せたときは何が違うの？」

「クラスで対立が起きたときには、どのような思いを大切にしたらよいだろう？」

21

— 模擬授業 —

内容項目 B 親切、思いやり

教材名 「ほのぼのテスト」
(教育出版『小学道徳5 はばたこう明日へ』)

22

主題名 相手の立場に立って【B-(7)親切、思いやり】

主題設定の理由

(1) 道徳的価値について

親切、思いやり [第5学年及び第6学年]

誰に対しても思いやりの心を持ち、**相手の立場に立って**親切にすること

23

(2) 教材の読み方について

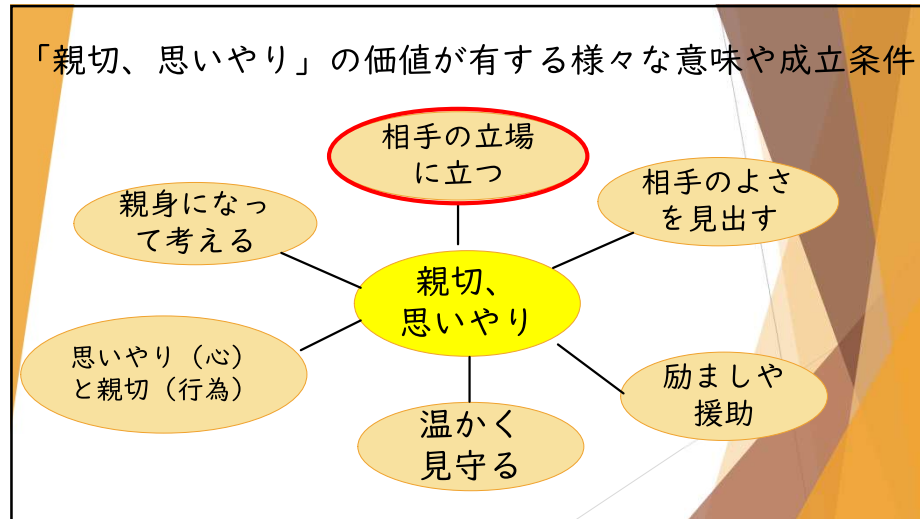
A：道徳的価値の意味、成立条件を読み解く

[第1学年及び第2学年]
身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。

[第3学年及び第2学年]
相手のことを思いやり、進んで親切にすること。

[第5学年及び第6学年]
誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。

24



25

B：複数の価値観の重みの違いを読み解く

価値観A：困っている人がいたら、とにかく親切にする。



価値観B：親切な行為は、相手や周囲の重荷にならないよう配慮する。

重み

ただし、価値判断は多様。対比させることは、対立させることに目的があるのではなく、価値理解を多面的な見方へと広げ、深めるため。

26

C：道徳的価値の意義（理由、効用・目的）を読み解く

理由

望ましい人間関係を構築するには互いに思いやりの心を持ち親切にすることが不可欠。その際、相手や周囲に親切心が直接的に伝わると重荷になる場合もある。

効用・目的

結果・帰結 短絡的な結果	おじいさんが大変な思いをせずに済んだ。
成長・変化 長期的な結果	乗客全員が、いやな思いをせずにバスの時間を過ごすことができた。 (これは運転手の使命でもある。)

27

D：「人間理解」の視点で読み解く

人間理解

道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること。

対象条件…その価値の理想が高いあまり、実現が難しい。

他者条件…周囲の人が価値の実現を邪魔するといった人的条件。

社会条件…環境や社会が価値の実現を妨げる場合の社会的条件。

阻害条件

自己条件…価値の実現を妨げる自己本人の性格的な条件。
無知や誤解や無理解・怠惰・打算・非力・受動性・無計画・気まぐれ・気おくれや恥ずかしさ・自己満足・行きなやみ・自信喪失・自暴自棄・絶望など。

28

「ほのぼのテスト」では…

人間的な弱さ（自己条件）が描かれているわけではない。

むしろ、「思いやり、親切」の実現が、対立する「規則尊重」という価値によって妨げられている状態と捉えられる。

「人間理解」の視点で読み解く方法がつねに使えるとは限らない。

29

E：教材で描かれている状況の条件を変える（条件変更）

「もし、乗ってきたのがお年寄りでなければどう？」

「もし、乗客がおじいさん以外にいなかったらどう？」

「もし、お客さんの中に特別に急いでいる人がいるのを知っていたらどう？」

「もし、『おじいさんが困っているから…』とアナウンスして降ろしてあげていたらどうだった？」

対象

相手

方法

時

どんな対象について、どんな相手に対して、どんな方法で、どんな時に、どんな条件のもとであれば正しいのかを多角的に分析。

30

F：個別の状況下での価値理解の適用の是非・あり方を考える

「先生が親切にされる立場だったら、ストレートに伝えてくれたほうがうれしいな。というのも…」

「あなたが困っていると思って、友達が内緒で〇〇してくれていたら、あなたは感じる？」

「どのようなときに、『相手や周囲に配慮された思いやり』が特に必要になるのだろうか？」

一般的な価値理解を異なる場面に適用する際の個別の状況下での判断（特定の対象・相手・方法・時などに応じた判断）の特殊性について考えさせる。

31

【演習2】

近くの人と、今の模擬授業について、子どもの多面的・多角的な思考を促す上で「この発問も有効だったのでは？」と思われる発問を話し合ってみてください。

32

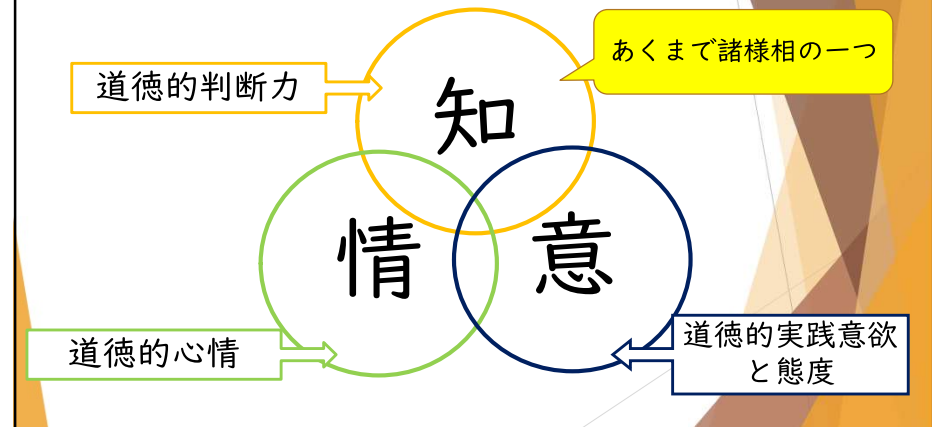
あらためて道德科の目標…

第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、**道德的な判断力、心情、実践意欲と態度**を育てる。

(『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道德編』)

33

道德性の諸様相



34

【引用・参考文献】

- ・浅見哲也『道德科 授業構想グランドデザイン』明治図書、2021年
- ・高宮正貴『道德的判断力を育む授業づくりー多面的・多角的な教材の読み方と発問』北大路書房、2022年
- ・高宮正貴「教材研究を変える『内容項目』の押さえどころ」『道德教育8月号』明治図書、2023年
- ・文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道德編』廣済堂あかつき、2018年

35

ありがとうございました

36